



☆四国で初めてとみられる外来種 「ムネアカハラビロカマキリ」を発見

謙苺さんと康介さんの兄弟は四国では確認されていなかった外来種の「ムネアカハラビロカマキリ」をそれぞれ発見しました。もともと昆虫が大好きな2人は、今年の夏にクワガタやバツタに加えてカマキリの飼育にもチャレンジ。動画投稿サイトYouTubeなどでカマキリについて詳しく調べるうちにこの外来種についての知識も身に付けていたなか、康介さんが幼稚園の手洗い場で、謙苺さんも授業の一環で周辺の水生物を調べていた際に発見。2人とも見つけた瞬間に「ムネアカだ」と確信したそうで、後日専門家により確認されました。

発見についての感想を聞くと「嬉しかったけど、ムネアカのオスは在来のハラビロカマキリのメスと交尾しようとするともメスの交尾器を壊してしまう。在来種がいなくなってしまうのかと心配になった」と話す謙苺さん。

そのほかの昆虫の生態についての知識も豊富で探究心の強い兄弟に将来の夢を聞くと「もちろん昆虫学者」と口を揃える2人。好きな昆虫は「タガメ」（謙苺さん）と「パラワンオオヒラタクワガタ」（康介さん）だそうです。

平野小学校 5年

兵頭 謙苺 さん

平野幼稚園 年長

兵頭 康介 さん

HighSchool NOW

～市内5校の高校生によるリレーエッセイ～

Vol.69 大洲高等学校

みなさんこんにちは。大洲高等学校2年の酒井みふゆです。今回は大洲高校の伝統行事である「仮装行列」について紹介します。仮装行列は、クラスで決めたテーマをもとに自分たちで衣装や山車を作り、市街を練り歩くものです。今年は歩く距離が肱川橋の手前までと少し短かったのですが、2年ぶりに地域に出向くことができました。

私たちのクラスは、昨年の経験を生かし一人ひとりの担当を決めることでスムーズに準備を進めることができました。人が乗れるように作った山車と、ゼロから手作りした衣装は完成度が高く、テーマに合った仮装を作り上げることができました。

いつもとは違った学校の雰囲気、市街を歩く際にいただいた沿道のみなさんの歓声や笑顔は、今でも忘れられません。生徒同士の協力、先生方のサポート、私たちをいつも温かく見守ってくださる地域のみなさんのおかげで、思い出に残る仮装行列になりました。大洲高校ならではの魅力あふれるこの行事を、来年もぜひ楽しみにしてください。



一回は大洲高等学校肱川分校からです。一

救急医療を担い続けて

県内の救急医療体制の充実に貢献し、救急医療に関する功績が顕著であるとして、市立大洲病院が愛媛県救急医療功労者知事表彰を受け、9月6日(火)に谷口院長に表彰状が伝達されました。

市立大洲病院は昭和52年から救急医療における病院群輪番制に参加し、現在も週2回の2次救急当番病院になっています。市内の2次救急の担い手として長年に渡って地域医療に貢献してきたことが評価され、今回の受賞となりました。



愛媛国際映画祭2022in大洲

愛媛国際映画祭2022の大洲市イベントが9月23日(金)にマリエール大洲で開催されました。この映画祭は県内各市町を会場にし、大洲市では「アニメーション作品を楽しもう！」をテーマに、上映会やゲストによるトークセッションに加え、コスプレ写真撮影会など多くのプログラムが行われました。アフレコ体験では、アニメーションの一場面に自分の声をあてることができ、参加者は登場するキャラクターになりきってセリフを読み上げていました。



写真：監督と声優によるトークセッションの様子

私の地元応援募金

9月27日(火)、明治安田生命相互保険会社から同社が展開する「私の地元応援募金」を寄付していただきました。

この募金は従業員が出身地やゆかりのある地域を応援しようとした募金に同社が上乗せをした上で寄附されるもので、松山支所大洲営業所長 川久保太介^{だいすけ}さんは「市民のみなさんの健康増進や子育て支援事業などに活用して欲しい」と話していました。



大洲城でダイニング

大洲城でディナーを楽しむ企画「キャッスルダイニングin大洲城」が9月30日(金)に開催されました。

えひめ南予きずな博のイベントの一環として行われたこの企画の参加者は、臥龍山荘^{がりゅうさんそう}や町並みを散策した後、大洲城に到着。県産かんぎつ飼料で育てた「あかね牛」をはじめ、豊かな自然が育んだ旬の野菜や鮮魚を使ったディナーを堪能し、大洲城を間近で眺めながら特別な時間を過ごしていました。





地域おこし協力隊へ辞令交付

10月6日(休)、地域おこし協力隊の松井和矢^{かずや}さん(27歳)に辞令交付をおこないました。松井さんは大洲市出身のUターン協力隊員。大学卒業後に航空自衛隊などを経験しながら、ふるさとへ戻るのを機に地域おこし協力隊に応募されました。

隊員として観光まちづくり課に所属し、地域の魅力発掘や新たな賑わいづくりの創出などの業務に携わります。



月を眺めながら食べくらべ

月や大洲城を眺めながらいもたきを楽しむいもたき観月会が10月7日(金)に肱北河原で開かれ、約200人が参加しました。

新型コロナウイルスの影響で3年振りの開催になった今回は、島根県津和野町、山形県中山町、そして大洲市の日本三大芋煮の食べ比べセットを用意、ステージで行われる雅楽やバンド演奏を楽しみながら、それぞれの味に舌鼓を打っていました。



自転車で大洲を駆け抜けよう

自然豊かな肱川沿いを舞台にサイクリングする「ツール・ド・ひじかわ2022」が、10月9日(日)に開催されました。この日参加した114人は、五郎の畑の前橋をスタートして、上級、中級、初級の3コースに分かれてゴールを目指しました。それぞれのコースに設けられたエイドステーションで、地元の名産品などを受け取り、梨や志ぐれなどの地元の“食”を堪能しつつ秋の大洲を駆け抜けていました。



笑顔でジャンプ

青少年なわとび選手権大会が10月10日(月)に大洲市総合体育館で開催されました。

大洲ロータリークラブの創立50周年記念行事として開催されたこの大会には、未就学児から高校生までの約100人が市内外から参加しました。日頃の練習の成果を発揮しようとする人や、初心者だけどなわとびにチャレンジしてみようという人が個人種目と団体種目に分かれ汗を流していました。

大洲産業フェスタ

地元の産業や商品の魅力を市内外の人に広く知ってもらうイベント「大洲産業フェスタ」を10月10日(月)にたいき産直市「愛たい菜」駐車場を会場に開催しました。3年振りの開催となった今回は、市内の事業所や団体から39のブースが出展したほか、今年新たに認定された「大洲ええモンセレクション」の6事業者8品目の認定書^{にぎ}交付式も行われ、会場は約7,000人の人出で賑わいました。



「大洲ええモンセレクション」認定書交付式



科学体験フェスティバル

科学の面白さと自然の不思議さを子供たちに体験してもらう「第24回科学体験フェスティバルin大洲」を10月15日(土)に国立大洲青少年交流の家をメイン会場に開催しました。教職員や高校生、一般有志などによる体験ブースでは、子供たちが実験や工作を通して身近な科学を学んでいました。この日はサブ会場として「長高水族館」も開催され、子供から大人まで多くの方が訪れ、餌やりや魚に関するクイズなどを楽しんでいました。



サブ会場の長高水族館



きらめき

ニュース

シリーズ

お知らせ

情報ひろば

図書館

未来を拓く

保健センター

相談・救急

【レンコンのじゃこ炒め】



材料（2人分）

レンコン	80g
乾燥ヒジキ	3g
豆苗（カイワレ大根など）	適量
しらす	8g
ごま油	適量
みりん	A 小さじ1弱
醤油	
ヒジキの戻し汁	適量

作り方

- ① レンコンは薄いちょう切りにし、水につける。乾燥ヒジキは水に戻し、豆苗は3等分に切る。
- ② 熱したフライパンに、ごま油をひき、強火でしらすをきつね色になるまで炒める。
- ③ ②を一度取り出し、レンコンを炒める。
- ④ ヒジキの戻し汁を加えてさらに火にかけ、レンコンが軟らかくなり、水分がなくなってきたら、ヒジキを入れてさっと炒める。
- ⑤ Aで味を調え、②と豆苗を入れて軽く炒める。

レンコンの栄養

レンコンは切り方や調理法によっていろいろな食感を楽しめる根菜の代表格です。

ビタミンCが豊富に含まれ、老化物質である活性酸素の働きを抑えたり、風邪予防にも効果的です。その他にも食物繊維やカリウムが含まれています。



【レシピ提供：健康増進課】

私たちにもできる

SDGs



日本で暮らしていると平和でない状況というのは想像しにくいものですが、世界では現在もどこかで紛争や戦争が起きていて、多くの子供たちが命の危険に怯えながら暮らしています。紛争や戦争は命だけではなく子供たちへの「教育」の機会も奪い、学校へ通えないことで子供たちの輝くべき未来が失われてしまいます。

ロシアのウクライナ侵攻のニュースが毎日流れていますが、それ以前からアフガニスタンやリビアでも紛争や内戦が続いています。私たちがこの問題を解決していくためには、まず世界ではどんな紛争があり、そこに住む人はどういう状態にあるのか関心を持つことです。

また、公正な世界の実現には少数の人間に権力が集中することを防ぐことが重要で、多くの人々が政治に参加する必要があります。日本の投票率は世界の中でも低く、選挙や政治に関心を持ち積極的に政治に関わっていきましょう。



文化財

大洲市指定有形文化財（彫刻）
木造観世音菩薩立像 1 軀
個人所有



この木像は、肱川町予子林にある客神社裏手の小堂に安置されています。昭和20年（1945）までは予子林の柳区内の観音堂に安置されていましたが、元々は同じ区内にあった行能山清福寺という寺の本尊であったとされています。

像高91.2cmと小ぶりですが、細身の体型や小作りの目鼻立ち、彫りは浅いもののなだらかで美しく刻まれた衣文が、平安時代後期に造られた仏像の特徴を伝えています。

残念ながら、化仏（観音像の頭上にある阿弥陀像）のほか、背板、右手の肘から先、両足先、持物、光背、台座など多くのものが失われていますが、市内でも数少ない平安時代の作品として貴重な仏像と言えます。

（昭和50年2月24日指定）